

平成 29 年 4 月月例記者会見

会見記録

1. 記者会見内容について

【 説明 】

【図書館とまちづくりワークショップ第1弾 本棚のWA】

市長 1つ目を説明させていただきますも「本棚の輪」という事業を始めたいと思っております。ポイントとして3つ挙げております。

1つ目が、去年「図書館まちづくりワークショップ」というのをやりまして、慶応大学の糸賀先生にも来ていただき贅沢なワークショップだったんですが、ここでいくつか非常に面白い提案をいただいたので、それをまず事業化をするということです。やりっぱなしのワークショップではなくて、しっかりと具体化をしていきたいというのが、1つ目のポイント。

2つ目が、市民はアイデアを出してもらってそれを実現するのは市役所だということだと面白くないので、そのワークショップで非常に熱心な方が来ていただいたので、ワークショップのアイデアを出していただいた市民の方が市役所の職員・図書館の職員と共に企画運営をしていただくという形でこの取り組みをしていただいているという所が、非常に大きなポイントでございます。

3つ目は具体的な内容として、生駒にゆかりのある方を中心にお呼びをして、例えば一番そのページの下にありますけど地ビールを生駒で作って販売をしてくれてる方でありますとか、生駒にお住まいのプロのヴァイオリニストの方とかに来ていただいて、それぞれビールの話とかヴァイオリンの話とか、そういう所の色々な話をお聞きしながらビールであればビールを飲ましていただいたり、ヴァイオリンであれば演奏を聴きながらというようなことをして、さらに関係するような本を図書館の司書に集めてもらいます。開催する時間も例えば平日の閉館した後に、少し夜の図書館みたいな形で大人の時間という場合もあるでしょうし、子どもが入る場合もあるかもしれませんが、夜の図書館・大人の図書館みたいな切り口でやっていきたいという風に思っております。

生駒市の非常に面白い方をこういう機会を上手く使って生駒市民の方に触れていただいたり、より深く知識とか掘り下げていただいたり、体験していただいたりという、非常に図書館を切り口にした、人と人とのふれあい、本を介したまちづくりということで非常に面白いなあと思っております。

具体的な中身は今申し上げたところでございますが、ワークショップの去年の経緯でありますとか、それぞれポイント1・2・3の詳細に付きまして資料で詳細説明しておりますのでご覧いただければと思います。具体的には、6月・9月に開催をいたしますので、近づいてくればもう少し詳細につきましての説明も皆様にご報告したいと思っておりますけども、とりあえず新年度に当たりましてこのような形で「本棚のWA」という名前で新しい取り組みをワークショップの成果を踏まえて、かつその時に来ていただいた市民の方が入る形で行うということでご紹介をさせていただきたいというのが1点目でございます。

【マイナンバーカード普及と活用、両方で全国トップレベル】

市長 2番目・3番目は市民課関係でございます。マイナンバーカードは色んな課題がありながらも、具体的な国民・市民の利便性向上のために色々な活用方法というのが検討されております。生駒市におきましては、まずマイナンバーカードの交付率が全国の市区の中で第4位になっております。これは先月発表された数字でございます。

普及だけだとあまり意味が無いと思ってまして、生駒市が胸を張れると思っておりますのは、普及も全国4位とういことで高水準なんですけども、同時このマイナンバーを活用して、今、生駒市が先駆的に全国でも先進的に取り組んでおります、いわゆるコンビニ交付のサービスです。人口1人当たりの交付枚数が全国2位となっております10万人以上人口がある市では全国で1位となっておりますということでございます。なので、マイナンバーカードの交付自体も全国でトップレベルでありますし同時にカードを活用したコンビニ交付サービスというようなサービスの実際の活用率、市民の方の利便性の向上につながる話だと思いますけども、活用のほうも全国で2位とか10万人以上であれば1位ということになっております。両方とも非常に全国でトップだという所は意外と少ないのです。どちらかがすごく高いんだけど、どちらかはそこまで高くないとか、交付サービスを受けてるのは比較的高いけれど利用率が低いとかいうケースが結構多い中で生駒市は両方とも非常に高いという事は全国でも珍しい、普及と活用が両立している町だということでございます。詳細の数字とかデータ、もしご質問があれば市民課長も来ておりますので回答させていただきます。

【「思いをかわす婚姻届」「婚姻届受理証明書」好評をいただいております】

市長 3つ目は「思いをかわす婚姻届」「婚姻届受理証明書」でございます。すでにご説明を1度させていただいておりますけれども、メディアの皆様にもご紹介をいただいたりしながら、市民は元より市外の方からも大変好評をいただいております。「思いをかわす婚姻届」ですが、具体的には婚姻届を出された方の36%の方がこの「思いをかわす婚姻届」をご使用いただいております。生駒市外の方も非常に関心を持っていただいております。生駒に住所も本籍地もないという方がこの婚姻届を利用している人の15%を占めます。この3月に至っては3組に1組が市外の方だったということで、そういう意味でも色々な反響をいただいておりますという事でございます。

同じく「婚姻届受理証明書」につきましても、一定のお金をいただくサービスになっておりますけども、2月中旬からの1ヵ月半だけで15件を発行しているということで、こちらも反響をいただいております。

市民課関係の取り組みが具体的にこういう形で活用されてますという報告でございます。

【質疑応答】

【マイナンバーカード普及と活用、両方で全国トップレベル】

記者 市長の発表にありましたマイナンバーカードの普及・活用率が全国でトップレベルということなんですけども、こちらのこういった取り組みとか要因があつてこうなつたと分析されてるのでしょうか？

市長 色々あつて、例えばお勤めの方に対して交付しやすいように夜とか休日に窓口を開けて対応し

たりとかというのがあるんですけども、先ほども申し上げたように実際に「生駒市はマイナンバーカード作って何がいい事あるの？」という所の受け皿がコンビニ交付サービスを全国に先駆けてやっていたのでマイナンバーカードを作ることによって非常に市役所が開いていない時でもコンビニで住民票が取れるとか、そういうメリットもしっかりと説明できていたという所とあいまって、交付率もそうですし、それをさらに逆に交付率が上がるから生駒市ではそういう活用も増えるという良い循環が出来たのかなと思っています。

【ランチタイムヴァイオリンミニコンサートを開催】

記者 ヴァイオリンコンサートですけど、先端大なんかはわりと定期的にやってるんですが、1回こっきりのものですか？

市長 1回やってみて評判を見ながら考えていきます。ヴァイオリン奏者の齊藤さんが、さっきの図書館のイベントも来ていただくような方で、関西フィルのプロのヴァイオリニストさんなんですけど、生駒でも何かまちづくりのお力になることがあればと非常に熱心に言っていた方です。昼休みの時間に例えば窓口に来られてる方とかが、そこまで音が大きくて作業とかに支障があるということはないということも一応確認して今回やるんですけども、例えば来られてる方から「ちょっと音がうるさくて、なかなか大変」とか例えば苦情があったりするような事もあるかもしれませんので、その辺「良かったよ」という声と「ちょっと困ったな」というような声がもしあれば、その辺を見ながら考えます。基本的には出来れば続けていきたいなと思っていますけども。

記者 演奏家は齊藤さんの方というわけですね？

市長 今回はそうです。齊藤さんに限るものでもないと思いますけど、今回は齊藤さんから非常にこういうお申し出をいただきましたので。

【図書館とまちづくりワークショップ第1弾 本棚のWA】

記者 「本棚のWA」なんですけど、生駒のどんなビールを出すとか、生駒にゆかりの講師とか、まだ未定なんですか？

市長 ビールの方は決まっちゃって、また6月17日の前に詳しくお伝えも出来ると思うんですけど、地元でゴールデンラビットビールという、あのふるさと納税の返礼品にも今年から入りました地ビールを作っておられる方がいらっしゃいまして、彼に来ていただこうと思っています。詳細は図書会館に聞いていただければ、色々な資料をお渡しできる物もあると思います。

【「思いをかわす婚姻届」「婚姻届受理証明書」好評をいただいています】

記者 「思いをかわす婚姻届」遠い所だとどの辺ですか？

市担当者 名古屋市の方からと岡山市からお見えになられてます。

記者 2人とも名古屋市、2人とも岡山市ということですか？

市担当者 岡山の方は片方だけらしいです。名古屋市はお二人とも名古屋だそうです。

記者 岡山のもう1人の方は？

市担当者 調べてみます。もう1人の方も生駒市に住所も本籍地もない方ですが。

〔パパ向け講座〕

記者 パパ向け子育て講座の事なんですけど、児童虐待防止につなげるということなんですけど、これは昨年の衣装ケースに子どもが詰めてと言いますか、亡くなった事案と関連して始まる講座になるんでしょうか？

市長 それだけが理由じゃありません。今までもパパ向けの講座もやっていますし、もちろんお母さん向けの取り組みも色々あるんですけども、全てが当然お母さん方お父さん方もそうですし、ひいては虐待防止にも繋がっていく意義もあると思います。今までもそうなんですけど、ただやはりおっしゃったように昨年そういう非常に悲しい事件もありましたので、先日検証報告書が出ましたので、県との連携とか、県にももっと汗をかいてもらわないといけないという所もあるんですけど、それも含めてしっかりと児童虐待防止に向けての取り組みをしていくという事で報告させていただきました。1つはもちろんスーパーバイザーみたいな方に来ていただいて我々の体制を強化するというのもあるんですけど、同時にやはり市民の子育てしておられる方に出てきていただいて、1つは気分転換とかもそうですし、色々学んでいただくような、来たお父さんお母さん同士が繋がるような場所作りとか、そういうものもしっかり強化していくような事も虐待防止の大切な柱の1つだと思っていますので、そういう意味での事業の強化という事でありまして。なので、児童虐待の話があったからというだけじゃなくて、それは今までもやってきた所あるんですけども、やはり去年の事件を受けてより強化していくという事で今回この取り組みにつながったというのはおっしゃるとおりかと思えます。

記者 トリプルPというのは、あまり聞いた事ないですけど特殊なんですか？

市長 私も去年受けました。それを皆さんにお知らせしてから行けば良かったんですけど。トリプルPというのはオーストラリアで開発されたそういう親向けのプログラムで。今回は父親向けと書いてありますけど、もちろん母親向けもありますし別に男女問わずというのもあるんですけど。やはり子どもと接していく上で子どもとの接し方もそうですし、私だったら父親として妻とどういう関係を築くことで子育てにプラスになるかとか、声のかけ方とか、気持ちのおもんばかり方とか、そういうコミュニケーションの具体的なスキル、特にももちろん子どもとのコミュニケーションなんだけども、そういう物を学ぶ講座です。生駒市は奈良県では先進的にやってる自治体ですが、ただ全国的に見た時にほとんど事例がないかというのと、その時にトリプルPの協会みたいなところにも所属しておられる先生に来ていただいて話を聞きましたけど、かなり広まりつつあるそうです。ただ、まだいくつかの先進的な自治体とかそういう所で導入されてるということで、まだ事例はすごく多いという事ではないんですけども広がりつつあるすごくいい取り組みだなという風に私も受けてみて思いました。

〔ランチタイムヴァイオリンミニコンサートを開催〕

記者 齊藤さんは、去年「市民みんなで作る音楽祭」に出た時に、こんな事したいなあという事で申し出があったという感じでいいですか？

市長 鹿ノ台でやっていただいたコンサートの時に齊藤さんに出ていただいていますので、その時に私も聞きに行っていますが、その時に齊藤さんとお話する中で、関西フィルの方なんですけども、敷居が高くなく本当に色々な所で市民の方に音楽に触れてもらいたいので出来ることがあれば何でもやりますというお話はその時にいただいて、それで色々なこのロビーでのコンサートにつながりました。「本棚のWA」について議論している時は、初めから齊藤さんを呼ぶという事ではもちろんなかったんですけども、

提案された市民の方なんかがどういう人を呼んだら面白いかな、というのを提案した市民で決めてくださいねみたいな事はワークショップで言ったら、さっきのビールの人と齊藤さんがいいんじゃないかなという事で、図書館の司書と市民の方とで話して齊藤さんになったということです。大体そんな経緯です。

記者 この中井さんというのは演奏仲間？

市長 鹿ノ台の時もヴァイオリンとピアノだったと思うんですけど、その時に来られてたのが中井さんだったか、ちょっと確認します。

広報広聴課長 鹿ノ台の時も中井さんです。

〔生駒北小中学校が新校舎で学校生活を始めました〕

記者 生駒北小中学校なんですけど、竹や木は地産地消で書いてあるのは奈良県産て事ですか？それとも生駒産という事ですか？

広報広聴課長 そこまで確認しておりません。

記者 なかなか地産地消とは言っても本当に出来るのかなって気がして。

市長 それもちょっと学校行く時に聞きましたけど、多分担当課が答えを持ち合わせてると思います。教育総務課とかに聞いていただければ分かると思います。

記者 当日は子どもたちが参加する式典なんですか？大人だけの式典？

広報広聴課長 はい。10時だから、学校やってる時間帯なので。

記者 授業中に式典が別にある理解でいいの？

広報広聴課長 そこも確認しておりません。

記者 式典終わった後にツアーがあるんですかね？

広報広聴課長 施設見学が。授業見学もあるので、多分子どもは授業やってると思います。ちょっと整理して、またお伝えします。

記者 茶室で茶会ってことは、お茶・・・全ての学校に茶室があるわけじゃないでしょ？小中学校に。

広報広聴課長 そうですね。

市長 これ確か、総合教育会議とかも、ここでやるって話もあったような気がしますし、当日ここでどういう事が行われるのかというのを一度整理してお伝えしたいと思います。

広報広聴課長 もう一度リリースをさせていただきます。

〔黒板デザインのクリアファイル クイズ形式の生駒市民憲章を配布します〕

記者 生駒市の中学1年生と小学校4年生合わせると大体何人くらい？小学校4年生と中学校1年生の人数を合わせると何人くらい？

広報広聴課長 大体1学年1,000人くらいです、生駒市の場合は。今回2,400人配布となっております。

〔パパ向け講座〕

市長 さっきのトリプルP、補足説明してよろしいでしょうか？ポジティブ・ペアレンティング・プログラム、前向きに子育てできる両親のためのプログラムということです。幼児からティーンエイジャ

一までの子どもの行動・情緒問題の予防と治療目的、そっちが主体ですね。子どもの問題行動が起きないように予防と治療目的に作られた親とか、子どもへのトリプル P みたいな物もあるので、本当に子ども向けもあるし母親向け父親向けとかその相互連関みたいな物もあるんですけど。今回は私が行った時は父親も 2 人くらい来てましたけど女性の方がやっぱり多かったです。6、7 人いたので。奥様に言われて来てた男の人何人もいましたけど、やっぱり男の人が少数派だったので、今回は特に男の人、父親も子育てにちゃんと入るよという意味を込めてトリプル P をやるということです。

〔JKが漫画で説明「マイサポいこま」〕

記者 マイサポいこまの漫画の説明の件で質問です。去年 18 歳選挙権を漫画で選挙権をアピールして結果的に生駒市はかなり若い方の投票率が高かったと思うんですけども、それも受けての今回のマイサポいこまでしょうか。

市長 そういう話もあったんですかね、多分。私もこれは担当のららポートの方のアイデアでやるっていう事でお聞きしたので、ららポートでどういう議論があったのかは分かりませんが、おっしゃるとおり昨年取り上げていただきましたけど 18 歳・19 歳の投票権の話の時に漫画を使った普及なんかもやりましたが、このマイサポの制度も 18 歳から投票できるという制度だったというのがありますので、まさに 18 歳・19 歳にも関心を持ってもらうという事も含めて、その選挙の話もおそらく意識してこういう形になったんじゃないかなという風に思います。特に若い方の投票率というのがマイサポの方もどうしても低くなりがちですので、そういう意味では漫画なんかは 1 つの取り組みなのかなという風には思います。

記者 今回、奈良北高校というのはこれもピンポイントで依頼されたということでしょうか？今回は、奈良北高校？

市長 ピンポイントなんでしょうね。生駒市内にある、漫画について全国的にも評価が高い、「やなせたかし賞」とか取ってます。というような事で、私も見ましたけど結構上手なんで、そんな事でピンポイントでこれはお願いしてると思います。

2. その他

〔北陸新幹線〕

記者 この間市長が北陸新幹線に関するコメントを発表されてましたけど、その後のリアクションはありましたか？

市長 市役所に対してって事ですか？私に対して？

記者 市長本人やまたは市役所に対して。県から。

市長 県からは特にないです。市民からはもちろん何人かお声がけいただいたりはしてますけれど、県でも少しお話ししたり、県の方とももちろんその後全然別件で会ったりもしてますので、少し若干この話になったりもしますが、突っ込んだ議論というのは特に向こうからは話というのはないです。

記者 県側からその後の顛末に対する、結局知事が南の方に云々と言ったけど、結局京田辺の松井山手になったことについての弁明なり意見交換とか。

市長 公式的なものはもちろん全く何もないです。

記者 それは課長とかそういうレベルでもない？

市長 ない。

記者 市長以外の課のレベル、職員レベルでもない？

市長 ないです。

〔市内中学生熱中症事故調査委員会調査結果報告書公表に伴う記者レクチャー〕

記者 23日か24日のレクですけど、委員の方が全員出席されて我々と質疑応答みたいな事は出来るんですか？

市長 教育委員会の分ですね。教育委員会事務局の方が説明することになってます。委員の方は出席なしという事です。教育長・部長・次長・担当課長という風になってます。

記者 この間みたいなやり方ではない？

市長 事務局側の方だと聞いております。特別会議室で。

記者 分かりました。

(了)